

第6回狛江市基本計画策定第三分科会会議録

- 1 日 時 令和元年8月16日(金)午後7時～8時55分
- 2 場 所 狛江市防災センター3階303会議室
- 3 出席者 委員長 高橋 信幸 副委員長 太田 ひろみ
副委員長 佐藤 正志 委 員 梶川 朋
委 員 周東 三和子 委 員 林 健彦
委 員 林田 直子 委 員 松本 すみ子
事務局 西村企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者 委 員 井沢 潤
- 5 議 題 1. 施策の方向性について(生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち)
2. その他
- 6 会議概要

議題1 施策の方向性について(生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち)
ー事務局より資料の説明ー

委員長 まず、「①地域における学びの充実」について御議論いただきたい。

林委員 「4 子どもがのびのびと育つまち」の議論の際に、若者についての整理をするということになったが、積極的に次世代の担い手としての役割を担っていくという想いを込められないか。

公民館については、例えば、ロビーをオープンキッチンにする等、新しい時代に即した公民館にしていくことや以前の会議で配付した資料においても防災拠点という側面を担うようになっている事例がある等、新しい市民センターを考える際にはそのような機能も入ってくるのではないかと考えている。

図書館については、利用率が低下していることから、もっとPRが必要であり、アウトリーチをしていく必要があるのではないかと考えている。例えば、市役所2階ロビーでのイベントや若者・高齢者へのPR、健康づくり事業との連携等、他事業や他部署と連携するような工夫をしていく必要があるのではないかと考えている。アウトリーチでは、来館困難な人へのサービスのみではなく、もう少し対象や範囲を広げたアウトリーチを考える必要があるのではないかと考えている。

周東委員 方向性1について、公民館や図書館は学ぶ場や居場所でもあるが、もう少し広い視点でも整理する必要があるのではないかと考えている。まちの様々なところに居場所があり、学生等を含めて誰もが利用できる場所や、社会教育の相談の場としての機能の一翼を公民館が担っていくことは、望ましいことだと思える。

また、市民センターの考え方としては、いつでも誰でも1人でも、市民が育ち合い、学び、憩い、交流できる場という位置づけで考えてほしいと思う。地域における学びの充実ということのみではなく、ひきこもり等を含めた居場所の問題等も含まれていると良いと思う。

梶川委員 子どもから高齢者まで生涯を通して学ぶことができるという議論を以前行ったことを踏まえると、施策の方向性に「生涯を通じた学びの実現」という項目があっても良いと思う。方向性2において、「ライフステージに応じて」という言葉があるように、児童・生徒であれば学校と社会教育の連携や子どもの社会参加、若者期であれば仲間づくりや居場所づくり、地域課題の担い手としての学びや仕事へのつながり等、高齢期であっても同様のことであると思う。そういう意味では、「ライフステージに応じて」に加えて、「多世代交流」という言葉や、実現するのは難しいかもしれないが、そのようなつながりを通して地域の中で交流の拠点ができるという方向性を打ち出しても良いと思う。「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」では、仲間づくりというのが大きな意味の一つだとも考えているため、「①地域における学びの充実」においても、それを意識した記載に整理していただきたい。

次に、方向性3について、これからの学びというものは、若者であれば地域課題をコミュニティビジネスという形に変えていったり、高齢者であれば、退職後、地域の課題を担う役割として第二の人生を歩むということもあると思うため、学びがただの余暇ではなく、生きる、働くということに結びついてくると良いと思う。また、行政との連携という視点は盛り込まなくて良いのか。他の分科会の所掌かもしれないが、学びの成果を市民が自主的・自発的に地域のために活用する、とのみ記載されると、市民が勝手にやっていくイメージを持つ。学びの主役は市民であるが、行政と市民の協働事業でも進めていくということを入れても良いのではないか。

佐藤委員 2点発言させていただく。

1点目、図書館について、以前、鎌倉市の図書館が学校に行きたくなくなったら図書館へおいで、というツイートをして、大きな反響があった。いわゆる居場所のない、学校にも行けない子どもも来てということである。何もせず、ぼーっとしている場所があっても良いということで、非常に強い支持を得た。それが文部科学省にも取り入れられ、不登校対策としての学校図書館の活用という考え方に結びついた。公民館も同様であると思っている。方向性が学習や学びということで、勉強しなくてはいけないという印象を強く持ってしまうため、居場所としての施設という想いを入れても良いと思う。

2点目、学びを通して仲間づくりがなされ、それが地域コミュニティの創

造につながっていくというような考え方も入れられると良いと思う。

太田委員 学びの場を整備すること、情報提供をしていくことについては記載されているが、学びの機会を提供するという視点を入れても良いと思う。例えば、虐待や子どもの貧困、認知症等、地域課題解決のための講座を提供することや、地域の各種団体が学ぶ機会や場を支援するということが入っていると良いと思う。

また、地域の各種団体間の連携を支援していくということが方向性3で記載されているが、団体の立上げ支援や相談体制の構築等があっても良いと思う。

施策の現状と課題について、学習活動を通して市民が交流し、交流による人のつながりをつくるような仕組みづくりが求められています、のような記載があると方向性につながると思う。

松本委員 方向性1について、市民が学ぶにしろ居場所とするにしろ、使える場所を提供していくということだと思うが、それらについてのPRが不足していると思う。決まった人しか使えない仕組みではなく、広く市民が使えるようPRしていく必要があるのではないか。これからの時代を考えると、紙媒体のみのPRのみではなく、インターネットやSNS等を活用していくという視点も必要ではないか。

方向性3について、例えば図書館では、起業支援や社会参加につながる学び、仕事につながる学び等、学びを多様に活用していくという想いが込められると良いと思う。単に子どもが学ぶのみではなく、大人になっても社会参加やコミュニティビジネスにつながっていく等の想いが込められると良いと思う。

林田委員 学びというものはそもそも自主的なものだと思う。学びを押し付けられている印象を持つため、学びが様々なところにつながっていくという表現になると良いと思う。

委員長 3点発言させていただく。

1点目、「地域における学びの充実」というタイトルにしているが、今回は、あえて社会教育や生涯学習ではなく、地域で学んでいくということを出したのは意味のあることだと思う。しかし、施策の方向性では、市民の学びとされていて、この中には子どもから高齢者までの全ての市民が入るが、前回議論となった若者の居場所や学び等の要素が薄いと感じる。20代や30代でも、結婚して子育てしている人は子育て世代という捉え方で捉えられるが、現在では結婚していない人もいれば、結婚しても子どもをつくらない人もいる。これからの狛江を考えたときに、そういう世代の人たちが、狛江を良いまちだと思い、40代や50代になってもここで暮らしていこうと思ってもら

えることが重要だと思う。そのような世代がいわゆる現役世代でもあるわけで、現役世代がいることでまちに活気がもたらされ、地域経済活動が盛んになるということにもつながる。

2点目、学びを仕事や社会参加につながるものとして捉えていくという意見があったが、大学との連携というのを打ち出してはどうか。狛江市には大学はないが、小田急線沿線にある大学と連携し、大学の先生による講座を市民が受けられるようにする等、趣味を超えてしっかりと学習できる環境をつくっていくのはどうか。近隣では三鷹市等においても大学との連携を進めていると思う。

3点目、福祉の専門職のネットワークというのはよく言われるが、地域における学びの仕組みをつくっていく専門職のネットワークも必要ではないか。社会教育主事や図書館司書、学校図書館の司書教諭、社会教育委員等が連携してネットワークを形成して、様々な場の提供や場の活用を検討していくことが想定できる。そうすることで、地域における学びに広がりを持つようになる。また、そのような専門職の人材をきちんと育成する必要がある。

事務局 公民館が居場所であるということに記載しているが、先程御意見があったとおり居場所は公民館だけではなく、地域の中にもあるべきである。その点については、方向性1において「地域の中で身近な場所で」というところで想いを込めている。

若者の視点については、一般市民の中で捉えて記載させていただいた。市の施策として若者支援は行っていくが、前回の議論を踏まえ、基本計画としてはあえて見出し立てはしないという整理としている。また、全体的な確認となるが、「6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」では、居場所も含まれるが、あくまでも学びがベースにあり、それを通じた支援や居場所という整理で記載させていただいた。学びを通じて居場所がつけられるということは、スポーツ活動についても仲間づくりという視点で同様であり、地域の中で孤立せずに成長していくということは、「5 いつまでも健康やかに暮らせるまち」で整理しても良いと考えている。

補足となるが、大学との連携については、狛江市においても日本大学と協定を結び社会人聴講生を募集している等の取組がある。

委員長 その他意見等なければ、次に「②芸術文化・スポーツの振興」について御議論いただきたい。

芸術やスポーツを振興する際には、例えば、体育協会や文化芸術振興事業団と連携する必要があるのではないかと。現にそれらを進めている団体とどのように連携し、育てていき、更に芸術やスポーツの振興をどのように図っていくのかということを考えていく必要がある。

梶川委員 方向性1について、「機会の提供や積極的な情報発信を行います。」とあるが、これはどこが主体となって進めていくものなのか。

事務局 市が進めていくことはもちろんだが、体育協会や文化振興事業団等とも連携しながらやっていく必要がある。

周東委員 例えば、公民館活動の中においても芸術の活動や展示等があり、他のイベントと連携した活動等もある。このようなものとの整理も必要ではないか。

松本委員 芸術の振興は市等が考えて市民に提供してもあまり面白くないと思う。市民が主体となって、そこから生まれてきた文化や芸術活動を盛り上げていくということが必要だと思う。その後、文化振興事業団が力を貸すといった仕組みができると良いと思う。市民と全く関係ないところで予算や計画が練られていても盛り上がらないのではないか。

委員長 芸術活動やスポーツ活動というのは、市民が自主的・主体的にやらないと盛り上がらないと思う。市の計画としては、市民の自主的な活動をサポートし、場や機会をどのようにつくっていくのか、ということだと思う。

周東委員 例えば、音楽の練習の場やスポーツができる場等、気楽に触れることができる場が少ないと思うため、何らかの対策が必要なのではないか。

林田委員 地域の中でも様々な音楽活動があり、レベルが高いところもたくさんある。そこで仲間づくりができたり、人材が育成されたりしている。そのような団体の活躍の場やバックアップしていける市になると素敵だと思う。

梶川委員 例えば、東京都美術館では、都民が自由に展覧会をすることができる等、学芸員がしっかりと配置されており、様々なアウトリーチを含めたプログラムを行っている。そのような拠点があると進めていくイメージが付きやすいが、狛江市には美術館等はないため、市民が主体となった多様な芸術文化活動を、どこが主体となって行っていくのか、その全体像が見えにくいと思った。

委員長 健康づくり施策と重複するが、芸術やスポーツ活動を生きがいづくりや健康づくりと結びつけて考えていく必要があるのではないか。健康寿命の延伸というテーマで考えると、介護等のみではなく、芸術やスポーツ活動を盛り上げていくことが、健康づくりや生きがいづくりにつながるのではないか。心身ともに健康状態を保つこともできるわけであって、そういう視点からも芸術やスポーツの振興を進めても良いと思う。

事務局 健康づくりについては、主の議論としては、「5 いつまでも健やかに暮らせるまち」となるが、つながりを持たせられるよう整理したいと思う。

梶川委員 スポーツへの参加機会の充実や芸術文化に触れる機会の充実と記載があるが、スポーツや芸術文化に触れることが自明のもののように記載されており、その数値を上げていくという捉え方ができるが、そもそもなぜスポーツや芸

術に触れることが良いことなのかということに記載しても良いと思う。それは生きがいつくりや仲間づくりというところでもあり、その先に、健康増進があり、介護予防にもつながるというところが見えてくると良いと思う。

委員長 スポーツや芸術に触れるというのは、自己充実感や自己肯定感を高めることであり、生きがいつくりでもある。その視点は大切である。

林委員 単なるスポーツの促進ではなく、仲間づくりや健康施策としては運動教室等もやっている。それはそれ、これはこれではなく、スポーツというのは体をつくり、健康を維持するという側面もあるため健康施策との連携も必要だと思う。一方で、やはりそのスポーツが面白いから、惹かれるからやってみようと思ひ、見る人は、そのやっている人の懸命な姿に心打たれるから見に行くといった面もある。そのような視点も含めて文章を整理していく必要があるのではないか。

委員長 その他意見等なければ、次に「③歴史の保存・継承」について御議論いただきたい。

佐藤委員 方向性1についてだが、狛江の歴史文化が記載されているが、泉龍寺を含めた狛江の文化財を持っている様々なお寺に関する記述が全く出てこない。そういうところとの連携も必要ではないか。

梶川委員 佐藤委員と同様、市内のお寺との連携についても盛り込めると良い。更に方向性1では、学校教育や社会教育との連携について含めた形で記載できると良いと思う。また、ハード面の記載はあるが、例えば語りべ等のソフト面についても記載を膨らませられると良い。

スポーツや芸術に何のために触れていくのかということともつながるが、歴史の保存・継承が何のためになされるのかということに記載していく必要があるのではないか。それは市民一人ひとりが自分の生きるまちの歴史や、そこで暮らした人の生活に思いをはせて、ふるさととしての狛江の文化の継承と発展を自分事として捉える、それが一人ひとりの生き方やあり方を豊かにする、ということではないか。

周東委員 資料に記載がないが、無形の民俗芸能等についても保存・継承が必要なのではないか。また、狛江は昔空襲があり、狛江駅前周辺が何箇所も被害を受けた。いわゆる歴史だけではなく、狛江の生活史のようなものもきちんと受け継いでいく必要がある。そのようなものに皆が触れる機会や学ぶ機会を提供できると良いと思う。

林委員 古民家園についてだが、現在も出前講座や体験学習等に取り組んでいると思うが、元々古民家園（旧荒井家）というものは小田急線の高架複々線化で潰される予定であったが、市民の働きかけにより復元され、市民協働で運営してきたという経緯があるが、現在では直営となっている。古民家園の良い

ところは、農家の庭先のような雰囲気や、畳の部屋等があり、子どもも遊ばせられる等、子育て家庭の居場所の一つとしても機能している。文化財の活用ではあるが、居場所や交流の拠点の一つでもあると思う。

林田委員 以前、子どもの学校のイベントで戦時中に泉龍寺の地下に埋めたオルガンを皆で取り出してみる、というものに参加した。非常に面白いイベントであり、そのような形で歴史に触れると子どもたちも歴史に興味を持つきっかけになると思った。

また、他自治体では遺跡等を掘るイベント等をやっている。そこから歴史上の人物が使用していた貴重なお皿が出てくる等、子どもたちが興味を持つきっかけとなるイベントをやっている。そのような体験をすることで子どもたちが歴史に興味を持つのではないか。

周東委員 公民館の市民大学においても古文書を読む講座を開催しているが、それを学んだ先にそれをどのように展開するのか、という仕組みが構築できていないと思う。狛江の社会的な課題とどのように結びつけるのかということを考えないと非常に勿体ない。

委員 長 学芸員の資格を持っている職員が市の歴史を解説してくれるような取組をきちんとつくっていくべきだと思う。例えば、絵を見たり音楽を聴きにいったりした際に、よく知っている人が横で解説してくれると、より深く理解することができる。歴史についても様々なものがあるということのみではなく、そこに学芸員がいて、その背景や意味を解説していくことで、より市民が深く市の歴史に触れ、理解が進むのではないか。本当に狛江の芸術文化や歴史を継承していくためには、学芸員は必要であると思う。

事務局 社会教育課において文化財巡りを職員が行っており、また、散策マップも現在作成中である。

佐藤委員 方向性1では、保存と継承に適切な場のみではなく、狛江の歴史を継承していく人材の確保ということも入れる必要があるのではないか。

委員 長 どの項目についても言えるが、場があり、仕組みがあり、それを動かす人が必要であり、専門の知識を持っている人が必要であり、その人たちが市民とネットワークを組んでいくことで発展していくのだと思う。そのため、人を育てていくという視点はどの項目にも要るのだと思う。

太田委員 歴史の保存と継承について、市民に愛着を持ってもらう、親しんでもらうと記載があるが、狛江の良さを市民だけではなく、市外にもPRするような取組があると良いと思う。

佐藤委員 そういう意味では、基本構想の将来都市像で使用している「水と緑」という言葉からは泉龍寺の弁天池が連想される。弁天池がこちら辺りに人が住み始めた根本的な水源地でもあるわけであり、それと多摩川という視点は大事に

していただきたい。

松本委員 広報こまえで連載している今は昔という記事を読んでいるが、様々な時代背景の視点で書かれており、非常に面白い。先日も東京航空計器の戦争後の物語がありとても面白かった。学芸員や大学の先生だけではなく、市民の中にもそのような人がたくさんいるのではないかと思う。そのような人たちから、例えば、戦争を知っている市民が、知らない子どもたちに伝えること等、古民家園で囲炉裏を囲んで昔話をするような会ができると良いのではないか。

また、市内には多くの古墳があり、入れるところもあるが、いつも鍵がかかって全く入れないところもある。そのようなところも公開したり、古墳巡りツアーを開催したり活用できると良い。

事務局 古墳については、個人が所有しているものもあるため、全てを開放という形には至っていない。

議題2 その他

委員長 その他特に意見等なければ、第6回狛江市基本計画策定第三分科会を終了とする。